

1971年8月 7日 第三種郵便物認可(毎月6回 1の日・6の日発行)
2003年5月30日発行 SSKA 増刊 通巻4544号

SSKA

ああるぴい

神奈川支部会報第27号



私たち自身で
治療法の確立と
生活の質の向上を目指す



JRPS 神奈川支部

目 次

【 J R P S 神奈川支部の活動】

夏の活動予定	2
つくしの会便り	2
カラオケ交流会からのお知らせ	4
トクトク講座のお知らせ	4

【情報コーナー】

神奈川支部事務局より	4
本部総会で決まったこと	5
ドラエモンのポケット	6

【 投 稿 】

ウッチャンの体験記シリーズ	7
会報発送はこんな様子	9

※ 会報のメール版及びテープ版をご希望の方は
下記までご連絡下さい。

佐々木 04*-*-*-*-*

Sa*****@dp.u-netsurf.ne.jp

【JRPS神奈川の活動】

夏の活動予定

- 6月21日(土) 第八回神奈川支部定期総会
県民サポートセンター 9:30~12:30
講演「支援費制度について」
神奈川県福祉部障害福祉課 平嶺 様
- 6月21日(土) 女性のミニ集会
県民サポートセンター 午後1:00~3:00
- 7月 5日(土) カラオケ交流会
ピアッツア「ミカド」 午後2:00~5:00
- 7月13日(日) ミニ集会 県民サポートセンター 705号室
- 8月 9日(土) ミニ集会 県民サポートセンター 604号室
- 8月17日(日) 白杖歩行体験講座
県民サポートセンター 7階 711号室
- 9月13日(土) ミニ集会 県民サポートセンター 710号室
- 10月12日(日) ミニ集会 県民サポートセンター 604号室
- ◎ミニ集会の時間は、各会とも午後1:00からです。

●つくしの会便り

1. 女性のミニ集会のお知らせ

つくしの会が発足してはや6ヶ月になろうとしています。その間皆さんからアドバイスや励ましの言葉をたくさんいただきました、本当にありがとうございました。私たち山内・渡辺・浜崎の3人も皆さんの声に励まされて頑張っております、これからもご協力宜しくお願いします。

6月21日支部総会が行われますがその後、女性の集りを行ってほしいという声がありましたので、早速実行しようと計画しました。是非皆さん奮ってご参加下さい。

お昼を囲んで皆さんと色々お話しをしたいと思います。これという議題はありませんが、今後のつくしの会の活動についてとか、日常生活の中の白状や手帳・支援費についてなど皆さんのご意見をうかがいたと思います。

場 所; 県民サポートセンター

支部総会を行った部屋か9階のフリースペース

日 時; 6月21日(土) 午後1:00~3:00(支部総会が終わった後)

お昼は各自準備してきて下さい。

2. 大船フラワーセンターのご報告

5月14日に大船フラワーセンターに行って参りました。参加は会員13名、付添いの方3名でした。暑からず寒からずで花曇りの私たちの目には丁度良い条件でした。

フラワーセンターの中には5月の花がたくさん咲き乱れ心を和ませてくれました。香りを楽しんだり、触ったり、見たり、聞いたり、楽しい半日でした。

様子を聞いてみますと、睡蓮も色々な色があったり、バラも赤・白・黄色・ピンクなど。また、知らない名前の花もいくつかありましたし、温室などを見学された方もあったようです。

お昼を食べながら白杖のこととか、障害者手帳はどういう時使えるのだろうか。ということなども話し合いました。

みんな打ち解け合って、昨日今日知り合った仲ではない、前からのお友達のように和気あいあいと楽しんで下さいました。

そして、一番嬉しかったのは、終わった後でお茶でも飲みに行きましょうと言った時に全員がそのまま行って下さったことです。

そして後から何人かの方から電話をいただきましたが、何か別れがたい、いつまでもそばにいたい、そんな気持ちでなかなか帰る事ができなかった。という声を聞いて私は本当に嬉しく、皆さんに感謝しております。またこういう計画を立てていきたいと思ひます、その時はご協力宜しくお願いします。ではまたミニ集会で会いましょう。

山内 則子



5月14日
大船フラワーセンターにて



♪カラオケ交流会からのお知らせ

今回も又、皆様のご要望にお応えして、カラオケ交流会があなたをお誘いします。ご家族、友人をお誘い合わせの上、奮ってご参加下さい。そして、映像の歌詞は見えなくても大丈夫、みんなでフォロー致します。尚、今回から会の進行をスムーズに行う為に、参加者は15名迄とさせて頂きますので宜しくお願い致します。

日 時 : 7月5日(土) 14:00~17:00

場 所 : ピアッツア「ミカド」

(JR関内駅北口より徒歩3分 和光ビル3階)

会 費 : 2500円位

集合場所: JR関内駅北口の改札口付近(横浜寄りの階段を利用)

集合時間: 13:30

参加ご希望の方は、下記の連絡先にお電話ください。

渡辺千登世 04*-*-*-*-*

携帯: 08*-*-*-*-*

高木 貞子 04*-*-*-*-*

●トクトク 講座 白杖歩行体験講座のお知らせ

日 時; 8月17日(日)午後1時から4時

場 所; 県民サポートセンター 7階 711号室

講 師; 中村 泰三 氏 (七沢ライトホーム)

内 容;

白杖を利用することの意味と重要性。

基本的な白杖の使い方。

白杖を利用する上での注意点。

お願い

参加希望の方で、白杖をお持ちの方は、持参して下さい。

【情報コーナー】

●神奈川支部事務局より

大窪 融

3月9日(日)に開催されましたアイフェスタin横浜では、多くの皆様にご来場いただきありがとうございました。

ウイリング横浜12階で行われた福祉機器展示会では、三十数社の参加がありました。来場者もほぼ1日途切れることなく盛況でした。拡大読書機やパソコンソフト、ルーペや眼鏡 などの補助具、携帯電話等に多

くの方々が興味を持たれたようです。

また、9階の医療・就労・パソコン相談やメイクアップコーナーもたいへん盛況でありました。

神奈川支部では、今後も機会を見て福祉機器展示会を実施していきたいと思っておりますのでご協力よろしくお願いたします。



大盛況だったメイクアップコーナーの様子です。

●本部総会で決まったこと

去る5月11日、東京都北区滝野川会館でJRPS第9回定期総会が開催されました。議案書どおりスムーズに総会は終了しましたが、今回新たに決定されたことで、大幅変更になった事柄や身近な話題を報告します。

1. 定期総会は今回が最後となり、来年度からは総会に代わりJRPSの最高意思決定は代議員会になります。

代議員は各支部から会員100名に一人の割合で支部から選出されます。神奈川支部は272名の会員ですから3人の代議員をだせます。

又、代議員会と同時に全国大会が開催されます。来年は広島県福山市での開催が決定しました。今後は全国各地で持ちまわり開催となります。

2. 新しい理事

横浜の森口綾さんが起業の準備のため、退任されました。豊かな国際感覚を生かして、世界大会の成功に多大な貢献をされ、これからのJRPSには欠かせない人ですが、これからは、会社の社長さんとして頑張ってください。

後任として、埼玉県の嶋垣謹哉さんが選任されました。

又、新しく千葉大学の教授になられた山本修一先生が学術理事に選任されました。

3. QOL対策費とリーダー研修会

会員のQOL向上を計るために昨 年下半期から試験的に実施した

QOL対策費を継続して実施すること、更に、各支部のリーダー育成の為の、地域リーダー研修会の費用も今年度から継続的に計上することが決まりました。

又、JRPS生みの親である、千葉大学教授の安達恵美子先生が本年3月に定年退官されました。尚、先生はこの度の叙勲で紫綬褒賞を受賞されたことも、釜本会長から報告されました。

●ドラエモンのポケット。

♪こんなものいいな♪ できたらいいな♪

今年はアトム誕生した年だって…。ドラエモンの誕生日知ってますか？ わかった人は次号に投稿してね。正解したら賞品がもらえるかもよ！

今回は少し難しいし、ドラエモンにもあまり良く解っていないんです。けど言っちゃいます。

ヒトゲノムとか言うのが解明されてみたら、一番賢い動物を自負していた人間と下等動物と言われていた、ミミズなどと遺伝子の数は大して変らなかったとか…。人間もあまり威張れた立場じゃないね！

JRPSの総会後のシンポジウムですごくお話を聞いたのだ！ 京都大学といえば、日本の再生医療研究の最前線、その教授を3月まで努められた本田名誉教授が、こんなことを話されました。(聞き間違いがあったらこめんなさい。)

「再生は可能、時間の問題だと思います。骨髄から網膜の再生は京都大学でも出来ています。ネックになっているのは、よその動物からもってきた細胞なので、免疫学的に拒否反応がある。肝臓のように一部だけならいいのだが、どうしてもクローン技術、免疫を除外するために、核を入れ替える。日本の世論はクローンが出来るということで認めていない。ただ、これを急ぎすぎても、原爆が大量に作られたように取り返しのつかないことになるので、じっくり世論が認めるようにならなければ…。」

のようなお話でした。

クローンの問題が解決すればすぐに「私の眼も見える！」ってな簡単な事ではないだろうが、先端の研究現場は加速度的に進歩しているのを強烈に感じましたよ！

早く見たいな！もう一度、あの綺麗な海を・山波を

【 投 稿 】

●ウッチャンの体験記シリーズ

山手線 ショートストーリー

内田 知

ある日の午後、山手線の電車にウッチャンは乗っていました。新宿から乗ったのだが、平日の昼間だと言うのに乗降客は多く、ドア付近にいたかったのに、後ろから乗ってきた人達に押されて電車の奥へ押し込まれるウッチャン。すしづめ状態とまではいかないが、コリヤ降りる時たいへんかもしんないと想った瞬間電車が動き出した。思わず手をのぼしたら運良くつり革につかまる事ができて、ホットするウッチャンでした。

原宿を過ぎて渋谷に到着、もしかしたらここで降りる人が多くいるかもしれないと考えていたら大当たりで、今までの混雑がうそだったように車内はすいてきたのです。

ところが、ホットしているウッチャンの耳に、あの独特の話し方をする集団の甲高い笑い声が聞こえてきたのです。そしてなぜか、その集団の一部が、ウッチャンのとなりにやって来て話し始めた。アア、まだ混んでる方がましと想うウッチャンでした。

しかし、このコギャルたちが、ウッチャンが思いもつかない行動にでるのである。

渋谷からひと駅過ぎた頃、わけのわからない言葉で会話をしていたのに、静かになって、小声で何やら話し始めた。へえ、おとなしくなる事もあるのかと想っていたら、突然それまで以上の大きな声で、「最近の大人は、チョウムカツカナイ。」「そうそう、チョームカツク、特に、わかってんのに、気が付かないフリしてさ、チョートボケテンノムカツク。」「ダヨネ、えらそうに、もんく言ってくるオヤジなんか、自分がヤッテンコトワカッテナイシー、イヤダネーチョーキライダモン。」

となりに居るウッチャン、なんだ、オマエラこっちが、チョームカツクゼと、コギャルたちの会話にハラをたてていた。

しかし、二人の会話を聞いていると、目の前に障害者が立っているのに、席をゆずろうとしない、それに寝たフリしている、それがむかつくのだと言っているのである。

それに、気が付いたウッチャン、なんとも表現できない気持ちになった。ただ二人の会話がすごすぎるのである。自分のためにしているのはうれしい事なのだが、もういいよと言いたくなるほどなのである。

そして、おもいきりストレートパンチの会話。

「だいたい昼間の電車の中で、寝てしまうほど仕事してないし、だいたいできるカオしてない。キャハハハ。」「ウッソー、そんなオヤジ見たことナー

イ。」「ウツソー、目の前にいるジャーン、寝たフリしてさ。」「アッ、ホントダ、ヤッダー、チョーダサイオヤジ」

ここまで言われたら席を立つしかない、ウッチャンの前に座っていた人は、まるで逃げるように席を立てどこかに行ってしまったのです。

すると二人が、「キャハハハ、ヤッタネ。」と言った後、「オジサン、前の席あいてんから座ったら。」とウッチャンに声をかけてきた。

それを聞いてとまどいながらウッチャンは、「エッ、イイノカナア。」と遠慮がちに返事をしたら。

「いいのいいの、なんでかあいてんだから、座れば。」と返事。

なんでかあいてんじゃなくて、あけさせたんだろうがと思いながらも、マッ、いいかと「あっそう、ありがとう。」と応えながら座るウッチャン、しかしなぜか、うつむきかげんで座っていた。

二人のコギヤルは、そのままウッチャンの前に立って、またわけのわからない会話を始めた。

そしてしばらくすると、車内放送が、次は、品川と流れた。ドアから離れた位置にいるのをわかっていたウッチャンは、すこし早めに席を立とうとした時、「オジサン、降りるの。」と尋ねられ、「アッ、ハイ。」と応え、「アブナクナイ、ドアんとこまで行ってあげる。」と言われた。

コギヤルの一人に、手をつながれ、ドアまで移動。渋谷あたりで遊んでいるコギヤル、手をつないてもらっている、喜んでいいのか妙な気分なウッチャンなのである。とにかく、社会問題の中に出てくるコギヤルと手をつなぐのは、これが初めてのことで、いままでの事は忘れて、喜んでしまえと想うウッチャンでした。

さて電車の中では、ドア付近にたまっている仲間たちに、「チョージャマ、どいて。」と言った、話に夢中になっていたらしく、エッと驚いていたが、その中の一人が、「ヘエー、やるじゃん、チョーカツコイイー。」と言った。すると、ウルサイナア、チョーテレルジャンカア。」とてれながら応えていた。

電車がホームに入りドアが開くまでのほんの数分か、数秒の間だが、仲間にひやかされ、テレながらも、ウッチャンの手を離さずいる、このコギヤルの中にある失ってはいないやさしさを、ウッチャンは感じていた。

やり方に問題があるのは事実だが、どう行動したらいいのかわからないだけ、わかっている動こうとしない大人より、今のウッチャンには、うれしい存在だと言っているだろう。

ドアが開き、ウッチャンといっしょに降りてしまったコギヤルに、あわてたウッチャン、「早く乗らないと、ほんとうにありがとう、助かったよ。」と声をかけると、「だいじょうぶ、乗れるから、おじさんアブナクナイ。」と言われ、

「ここまで来たら目をつぶっても歩けるから。」と応えると、例のごとく、キャハハハと笑ってくれた。

それまでひやかしていた仲間たちだったが、だまってその光景を見ていた。その中の一人が、「チョーカッコイイー、まじにカッコイイー。」と歓声にもた声を上げたのである。

それを聞いて、いっしょに降りてしまったコギヤルは、「マジ、カッコイイ、キャハハハ、なんかチョーウレシイー。」と応えながら、電車に乗った。そして発車のベルとともに、他の仲間たちが、ホームにいるウッチャンに、「オジサン、気を付けてねえ。」と声をかけた。

それに応えるように、ウッチャンも「アリガトーネ。」と応えたのである。

電車がホームから離れるのと同時に歩き始めた。コギヤルたちにはジョークを飛ばしたが、山手線を利用するのは今回で三回目ぐらいなのである。しかし、山手線に乗った新宿駅のような必要以上の緊張はなくホームを移動できたのである。

いやはやなんとも言えない、なんだかなあって感じの出来事でしたが、また一つ、不安やこわさよりも、外に出掛けていく楽しさをウッチャンに教えてくれたのは間違いないようだ。

●会報発送はこんな様子

佐々木 裕二

会員の皆様こんにちわ、今回は会報がどのように皆様のところに届けられているのか、会報発送作業の様子をお伝えしようと思います。

会報の発送は2月5月8月11月の第4日曜日又は土曜日に行われています。場所はミニ集会と同じ県民サポートセンター、9階フリースペースです。ここには印刷機や自動紙折り機？、ロッカー等があり格安で使うことが出来ます。しかし土日は利用者が多くテーブルを確保するにはちょっと早く行かなければなりません。

発送作業に来られる方は会員の有志や御家族などです。私がJRPSに入って驚いたのは、どんな行事でもほとんど会員で運営してしまうことでした。もちろん御家族やボランティアさんがいらっしゃることもありますがそれに頼っていないところがすごいと感じました。この発送作業も例外ではなく、会員で作っているのです。当たり前なんでしょうね。

さて、原稿と紙が到着すると印刷が始まります。印刷は主に男性が担当し、目を凝らしたりルーペを覗きながらページを間違わないように原稿を組み合わせながら印刷してゆきます。印刷コーナーは印刷機のガチャッガチャッ。紙が飛び出して当たるコンッコンッという音でとてもにぎやかです。また、インクの臭いが立ち込めて正に作業場です。

それと並行してテーブルでは封筒の準備が始まります。封筒の口を3分の1カットしたり、宛名のラベルを貼ったり、ゴム印を押したり。良く見える者もそうでない者も出来る範囲で力を合わせます。「あっ斜めになった。」「シワになっちゃった。」「いいよ、いいよ、届けばいいよ。」などととてもにぎやかです。

印刷が終わったページから折り込んで行きます。例えば16ページの会報だとすると、一番真ん中は7と8ページで、その裏側は6と9ページになります(表紙はゼロページですヨ。)。その左側には5ページを持った者が並び、更にその左側には3ページを持った者が並び、順番に流れ作業で中に折り込んで行きます。

裏表が合うように印刷するのも大変ですが、一枚ずつ折り込むのも簡単なようで結構二枚入れたりするものです。最後に枚数が合わなく半端ものがでてしまい、「犯人は誰だ！」とまた大笑いします。どなたか同じページが二枚入っていた方ありませんか？ それは私が犯人です、お許しを！？

封筒を郵便番号でまとめて郵便局へ持って行くのはだいたい3時過ぎで、その後は恒例の居酒屋ということになります。

どうでしたか？もし私もやってみたい、という方いらっしゃいましたらどうぞお気軽にご連絡下さい。もちろん投稿も大歓迎ですよ。



発送作業の様子です
中になるページを折り込んで
となりに回します。



発送日の問い合わせは

大窪 04*-*-*-*-*

佐々木 04*-*-*-*-*

お知らせとお願い

前回の会報26号の記事『損害賠償のご用意がありますか?』の内容が野村富恵さんのホームページ

<http://www002.upp.so-net.ne.jp/nomura/> からの転用(一部変更)であったことがわかりました。投稿してくれた方が直接HPを見たわけではなかったようですが、ここに編集部からも野村さんにお詫びを申し上げます。

投稿される方は他からの文書の引用の場合、作者への転載確認などお気を付け下さいますようお願いいたします。

どうぞ今後とも便利で楽しい会報作成のため皆さまの奮っての投稿をお待ちしております。

編集後記

前回初めて会報編集をさせていただきましたが、発送後思いがけなく沢山のお電話をいただき大変驚きました。記事の内容をもっと詳しく知りたいという方やテープ版・メール版の申し込みでした。

多くの方が会報を楽しみにされていることを実感しました、これからも一生懸命させていただきます。どうか投稿はもちろんですが、要望やアイデアなどお気軽にお寄せ下さい。皆様に盛り上げていただきより楽しい・役に立つ会報に、支部活動につなげて行きたいと思えます。 佐々木

発行人

身体障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧 6-26-21

編集

JRPS神奈川支部会報編集部
佐々木 裕二

〒256-0812 小田原市国府津2364
国府津団地3-306

TEL 04**-**-**** FAX 04**-**-****
E-mail sa*****@dp.u-netsurf.ne.jp

定 価 200円